

朱三校沿革（抜粋）

- 明治35. 4 元葛野郡大内村（現在地）に大内村，朱雀野村，西院村，七条村組合立にて，第三高等小学校として開校
- 大正10. 4 校名，京都市松原尋常小学校として独立を認可。1年から5年まで8学級，532名
12. 8 朱雀第三小学校と改称。校章を制定
- 昭和 3. 4 高等科併設（女子部）により，京都市立朱雀第三尋常高等小学校と改称
4. 3 下京区34学区を中京区朱雀学区と改称。御真影奉安庫新築
16. 4 京都市朱雀第三国民学校と改称
22. 4 学制改革により京都市立朱雀第三小学校と改称。育友会発足
24. 8 西男子便所・東女子便所を水洗便所に修理改造
26. 10 創立30周年記念祝賀式を挙行
29. 4 校歌制定
40. 3 鉄筋コンクリート造講堂竣工
43. 4 養護育成学級新設。入級児5名
44. 6 プール完成
46. 10 創立50周年記念式典を挙行
47. 3 運動場整備，ブランコ，総合遊具の新設
48. 9 南校舎ガス暖房化完成
53. 10 緑化運動の一環として苗木600本を植樹
56. 7 創立60周年記念式典を挙行
57. 7 運動場改修工事完了
58. 5 観察池改修工事完了
61. 4 運動場夜間照明設備工事完成
- 平成 1. 8 北校舎改装。屋上防水工事，外壁塗装，アルミサッシ及び防球ネット新設，和室・多目的ホール・育成学級・低学年図書室・事務室・教育相談室を新設
3. 7 創立70周年記念式典を挙行。記念写真集を発行。つどいの間にエアコン設置（記念事業委員会より寄贈）。中京西支部生活科推進校に指定
5. 4 福祉教育推進校指定
6. 12 図書室机・椅子整備（うるおい活動）
7. 2 環境教育賞（エコ大賞）受賞
8. 1 教室床面ワックス塗布（2足制実施）
8. 2 環境教育特別賞受賞
8. 4 環境教育推進指定校
8. 9 キューピクル設置。講堂照明，南校舎教室照明，北校舎廊下照明改修
8. 12 環境教育1年次研究報告。エコリーダー奨励賞受賞
9. 8 コンピュータ21台設置。都大路スクールネット加入
10. 10 学校保健安全優良校 表彰
11. 1 フロンティアスクール（理科・生活科）推進事業指定 1年次研究発表会
11. 6 校舎等全面改築に国の補助事業認可
12. 1 プレハブ校舎での授業開始
12. 2 フロンティアスクール（理科・生活科）推進事業指定 2年次研究発表会
12. 12 フロンティアスクール（理科・生活科）推進事業指定 3年次研究発表会
13. 6 新校舎完成お祝い会を催す
13. 7 創立80周年
13. 11 第53回教育功労者表彰で団体表彰を受ける
13. 11 『21世紀の学校づくり推進事業』指定 1年次研究発表会
14. 5 「ピオトープ」「どうぶつ村」完成お祝いの会
14. 8 K E S（京都環境マネジメントシステム学校版）第1号の認証を受ける

- 14. 12 「ソニー子ども科学教育プログラム」奨励プロジェクト校に選定される
- 15. 2 『21世紀の学校づくり推進事業』指定 2年次研究発表会
- 15. 4 2期制・教科担任制導入
- 15. 7 コンピュータ機器更新
- 15. 12 「ソニー子ども科学教育プログラム」奨励プロジェクト校に選定される
- 16. 1 『21世紀の学校づくり推進事業』指定 3年次研究発表会
- 16. 12 「ソニー子ども科学教育プログラム」努力校に選定される
- 16. 12 校内LAN完成
- 17. 2 みやこ学校創生事業、学校の情報化推進事業指定 研究発表会
- 17. 2 学校ビオトープ優秀賞（学習部門）受賞
- 18. 2 みやこパイロットスクール校内LAN活用、理数大好きモデル地域事業指定研究発表会
- 18. 10 学校運営協議会設立
- 19. 2 みやこパイロットスクール、理数大好きスクール 研究発表会
- 20. 1 「ソニー子ども科学教育プログラム」努力校に選定される
- 20. 2 学校ビオトープコンクール銅賞
- 20. 4 みやこレインボースクール研究指定
- 20. 8 小中一貫教育推進校指定
- 21. 4 体育学習推進校指定
- 21. 6 第19回 近畿小学校体育研究大会 京都大会 開催
- 22. 4 豊かな学びモデルスクール推進事業研究指定
- 22. 11 第55回 全国体育学習研究協議会 京都大会 開催
- 23. 4 豊かな学びリーディングスクール推進事業指定校
- 23. 7 創立90周年記念式典を挙げる
- 24. 4 食育推進事業研究指定
- 24. 8 耐震性防火水槽完成
- 25. 7 ブランコ修理完成
- 25. 8 門扉・電磁ロック完成
- 26. 4 京都市中京区に編入 「京都市中京区壬生松原町81番地」

朱三学区由来

朱三学区は、はるか平安京の昔には大内裏の中央門である朱雀大門と、都の南入り口である羅城門を結ぶ朱雀大路の中程にあり、歴史的にも名所旧跡が数多く残存する地域である。「壬生」という地名は当地に湧水が豊富なところから「水生」が呼称され、転じて「壬生」となったという。また、壬生大路（現、壬生川通）に沿った地域であるところから由来しているとする説もある。壬生地域を語るのに忘れてならないのは地蔵院（壬生寺、寛弘2年）の創建である。壬生寺地蔵尊に対する諸人の信仰は厚く、江戸時代には京都一の盛況であったと古今の地誌に書かれている。当時、壬生の界隈には民家がほとんど無く、春ともなれば菜の花が一面に咲き、『ぶらり酔いて花の影、門で押さるる壬生念仏』と芭蕉の連句からも当時の様子がよく伺われる。また、壬生寺の大念仏会の際に上演された無言劇は「壬生狂言」とよばれ、壬生村の住人が従事し、壬生寺のみならず村の重要な行事となり、現在は重要無形民俗文化財に指定されている。

幕末から明治末期にかけての政争は京都の至る所に及び、壬生村の壬生郷土宅に新撰組が駐屯し、壬生浪士と呼ばれ恐れられるに至った。

明治22年の市町村制施行により、壬生、西京、聚楽廻りの各村は統合され葛野郡朱雀野村となった。学校名はこの村名と校区内を通る朱雀大路に由来する。壬生地域北部は文政7年以来の西高瀬川の開削により丹波木材の利便性がまし、その流通の中心地となった。保津川から筏のまま水路を運ばれてきた木材は千本三条以南の材木市場で取引され、今も材木店が多く市街地構築の基礎となっている。一方、南半分は水が豊富なことから、水菜（壬生菜）が栽培され、茄子、葱などの農産品と共に市民の食料となった。更に、古くから藍が生産され、藍染めの技法が普及した。名水が出たこともあってやがて友禅染へと発展していく。山陰線の開通、五条通りの整備により輸送力が飛躍的に向上したことから、染色関係の工場や工具類の製造販売業を中心にした準工業地帯へと発展していった。